

調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議長 勝浦伸行様



報告年月日	令和6年7月12日
実施日(期間)	令和6年7月3日(水)～5日(金)
実施場所 (行先等)	7月3日:富山県南砺市 7月4日:富山県射水市 7月5日:長野県飯綱町
事業区分 (いずれかに○)	研修 調査研究 要望・陳情活動 会議
事業内容	以下の取組について、事業担当者より説明を受け、質疑応答を行った。 富山県南砺市:エコビレッジ構想 富山県射水市:里山アグリテックバレー構想 長野県飯綱町:議会改革と廃校活用
報告者	(会派名)輝郷会 (代表者) 小野寺 道雄
参加者	議員 小野寺道雄 議員 千葉 幸男 議員 千葉 信吉 議員 猪股 晃
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・別紙 2. 概要・・・・・・・・別紙 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙
主要 資料名	別紙レジメ _____ _____ _____ _____

別紙

1. 目的

議員資質の向上と、今後の市政に対する提言等に役立たせるため。

2. 概要

南砺市：自然と共生し環境への負担が少ない暮らしを営む共同体「エコビレッジ」の考え方や取り組みを市内全体に広げ、小さな循環による地域の自給率、自立度の向上や持続可能な地域づくりを目指し、「小さな循環による地域デザイン」を基本理念として、本構想では、以下の6つの基本方針に据えている。

- ①再生可能エネルギーによる地域内エネルギーの自給と技術の育成
- ②農林業の再生と商工観光業との連携
- ③健康医療・介護福祉の充実と連携
- ④未来を創る教育・次世代の育成
- ⑤ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスによるエコビレッジ事業の推進
- ⑥森や里山の活用と懐かしい暮らし方の再評価による集落の活性化

このエコビレッジ構想は、公募の市民や庁内プロジェクトチームメンバーなど約50人によるエコビレッジ志民会議での半年間の検討を得て、2013年に策定された。

市の総合計画に基づく重要施策とともに、地域づくりのあり方を示す指針として位置づけられている。

2016年には「南砺市バイオマス産業都市構想」を策定し、市域の8割を占める森林の活用を図る木材利用の循環システムを構築するため、市内の木材関連業者や森林所有者等が設立した南砺森林資源利用協働組合がペレット化し、ペレットストーブの燃料として供給している。（ペレットストーブは外国産で、壊れやすいとのこと。）

また、エネルギーの地産地消と地域課題解決、地域活性化の実現への取り組みとして、北陸電力からの電力調達のほか、太陽光発電など再生可能エネルギーを増やし、エネルギーで得た資金を地域課題解決に投資することを目的に、市内の若手主導で会社（株式会社なんとエナジー）を設立。民間事業者や行政と連携して、エネルギーと資金の地域内循環の取り組みを行っている。

また、各地区の自治振興会や公民館、地区社協の一本化、公民館の交流センター化と事務局体制の強化によって、地域ごとに課題解決を図る取り組みとして、現行の住民自治組織を解体し、新たな組織として地域づくり協議会（小規模多機能自治組織）を全31地区に設置して、各地区で独自の地域づくりが進められている。さらに、地域づくり協議会が主体になり、地域包括システムの構築にも力を入れている。

2019年には、エコビレッジ構想の取り組みがSDGsの考えと合致することから、SDGs未来都市に応募、提案して選定されている。また、SDGs先導的な取り組みとなる「自治体SDGsモデル事業」にも選ばれている。

また、総合計画は、SDGsの達成に向け、バックキャストの考え方でエコビレッジ構想の深化など、全分野へ横断的な関わる観点を総合的に各施策に反映している。

射水市：生産性と効率性の高い営農形態への転換を図るための、農業DXの推進と、テレワーク拠点施設整備（アグリライミズ）を契機とし、農業に関連した企業を誘致することで、地域への人材の呼び込み、デジタル技術等の活用、環境負荷の低減といった地方創生の新たな視点で、地域農業の成長産業化や地域の活性化を目指す取組を学ぶ。

※「アグリテック」とは、農業(アグリカルチャー)とテクノロジーを掛け合わせた造語

「射水市アグリテックバレー構想」の名称は、農業者と企業の結びつきにより地域を活性化させることへの思いを込めたもの。

主な取組

- ①農業DXの推進
- ②コメ生産中心からの変革—出口戦略を伴う園芸振興、新市場開拓
- ③企業との共創による新規事業の推進（生産→加工→販売）

飯綱町：議員の成り手不足対策と町民の政治参画意識の高揚を図るためのサポーター制度と廃校利用の取組を学ぶ。

主な取組

- ①政策サポーター制度による町民の政治参画意識の醸成
- ②政策提言
- ③いづなコネクト（2校の廃校を活用した地域の活性化）

3. 参考とすべき事項・所感

○南砺市

人口減少、少子高齢化、若者世代の転出（若い女性の減少）、気候変動など、今後想定される地域課題に正面から向き合う施策として、南砺市エコビレッジ構想を策定し、地域資源から付加価値を生み、市内循環を広げ、地域全体の自立度を高めるまちづくりの取り組みは、同時期に「バイオマス産業都市構想」や「SDGs 未来都市」に選定されている当市の現状と比較するまでもなく、市民や事業者、企業の参加のもとに構築されており、示唆に富み、大いに参考になるものがあった。

○射水市

- ・サテライトオフィスを拠点として、アグリテック企業と農業者、高等教育機関等の連携を促し、農業DXの推進やIoT技術活用した農業・農村振興等の取組が興味深く参考になった。
- ・全農・営農管理システム＝Z-GISの活用・導入により圃場データの作成により水田管理など電子地図上で「見える化」が図れる。当市として早急な検討が望まれると感じた。

○飯綱町

- ・「開かれた議会」づくりの実践として、公募による議会政策サポーター制度の導入や、議員との協同による住民（町民）参加による「見える議会」など、特徴的な議会、議員各位の活動がとても参考になった。

- ・廃校利活用之际して、町がその活用を後押しする施設整備を约束し、住民主体の組織が構想を策定し、その有効活用（企業のサテライトオフィスやテナント企業の参入、スポーツ合宿施設やスリースクール、食堂運営など）が積極的に行なわれており、2校のリノベーションにより、100名の雇用が創出されていることなど、大変興味深くとても参考になった。

それぞれの取組に共通するのは、危機感を持ってまちづくりや議会改革に取り組まれていることであり、それを推進する体制をしっかりと構築していることでした。

調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議員 勝浦伸行様



報告年月日	令和6年8月2日
実施日(期間)	令和6年7月29日(月)～30日(火)
実施場所 (行先等)	7月29日: 埼玉県狭山市 7月29日: 東京都茅場町(いわて南牛購買者懇談会会場) 7月30日: 東京中央食肉市場
事業区分 (いずれかに○)	○ <u>研 修</u> 調査研究 要望・陳情活動 会議
事業内容	以下の取組について、事業担当者より説明を受け、質疑応答を行った。 埼玉県狭山市: 子育てプレイス、子育て支援センター事業の取り組み また、東京中央食肉市場で実施された第16回いわて南牛枝肉共励会(競りと褒章授与式)を見学し、市場動向を学ぶとともに、前夜に開催されたいわて南牛購買者懇談会にも参加し、生産者や関係機関等との情報交換を行った。
報告者	(会派名) 輝郷会 (代表者) 小野寺 道雄
参加者	議 員 小野寺道雄 議 員 千葉 幸男 議 員 千葉 信吉 議 員 猪股 晃
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・別紙 2. 概要・・・・・・・・別紙 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙
主要資料名	別紙レジメ

別紙

1. 目的

議員資質の向上と、今後の市政に対する提言等に役立たせるため。

2. 概要

狭山市：子育てプレイス、子育て支援センター事業の取り組み

－妊娠期から子育て期までの切れ目のないサポートの取組

①子育て支援センター、各種支援事業

○利用者支援事業基本型

総合子育て支援センター ちゃっぼ＝乳幼児期の子育て相談

・子どもをあそばせながら、日々の子育ての疑問や悩み事、困りごとを子育て相談員や保育士が相談の取組を行っている。

○利用者支援事業母子保健型

保健センター＝妊娠・子育て期の母子保健相談

・妊娠届け出時に助産師・保健師が子育て支援などのサービス紹介、妊娠期から子育て期までの様々な相談の取組

○利用者支援事業特定型

市役所(保育幼稚園課)＝保育コンシェルジュによる保育所(園)・幼稚園などに関する相談

・子育て家庭が教育・保育施設などや地域の子育て支援事業(一時預かりなど)を円滑に利用できるよう、情報の提供や利用についての相談の取組。

②子育てプレイス

・主に0歳から3歳までの乳幼児を持つ保護者と子どもが気軽に集い、交流するとともに、子育てに関するさまざまな情報を提供し、育児相談などを行う事業。

・子育て中の親子の仲間作りや子育てへの負担感を軽減し、安心して子育て・子育てができる環境を整備する一方で、子育てボランティアの育成や、子育てに関するサークルの支援などを行い、地域の子育て支援機能の充実を図ることを目的としている。

第16回いわて南牛枝肉共励会

○いわて南牛購買者懇談

東京都茅場町の懇談会場において、いわて南牛振興協会(会長 一関市長)が主催して開催され、行政からは一関市、平泉、岩手県の行政関係者、JA系統からはJAいわて平泉、岩手県や全農の関係者、購買者などの市場関係者が参加し懇談が行われた。

会派議員は3名(小野寺道雄、千葉信吉、猪股 晃)が参加し、関係者と懇談し、意見交換を行った。

なお、千葉幸男氏にあつては、翌日に議会用務があり帰参した。

○いわて南牛枝肉共励会（競りと褒章授与式）

黒毛和種肥育牛 雌8頭・去勢28頭の計36頭が出品され、競りの結果は以下のとおりであった。

雌 平均単価 967,157円（枝肉単価 2,206円/kg）
去勢 平均単価 1,262,696円（枝肉単価 2,358円/kg）
計 平均単価 1,197,021円（枝肉単価 2,324円/kg）
上物率（4等級以上） 97.2%

内訳 5等級 30頭、4等級 5頭、3等級 1頭

入賞者は以下のとおり

○名誉賞 及川正一氏（去勢 1,546,545円—枝肉単価 3,003円/kg）

○優秀賞 阿部秀樹氏（去勢 1,482,340円—枝肉単価 2,705円/kg）

菅原和久氏（去勢 1,469,362円—枝肉単価 2,711円/kg）

三浦博正氏（去勢 1,387,456円—枝肉単価 2,608円/kg）

○優良賞 佐々木賢治氏（去勢 1,436,896円—枝肉単価 2,656円/kg）

千葉良恵氏（去勢 1,320,528円—枝肉単価 2,501円/kg）

佐藤 良氏（去勢 1,242,150円—枝肉単価 2,535円/kg）

※ 参加議員は2名（千葉信吉、猪股 晃）であり、小野寺道雄氏は他の議会用務が入り欠席となった。

3. 参考とすべき事項・所感

狭山市

- ・総合子育て支援センターが西部狭山市駅に隣接されていて、一時預かり、好きな時間に気軽に利用できるなど今後当市における施設計画の際の参考になると考える。
- ・直営・委託を含め子育て支援の居場所・施設などが小学校区を中心に設置されていて「ともに支え合い、子育て・子育て」環境などの整備に向けての参考となった。

いわて南牛枝肉共励会

枝肉単価がコロナ前の水準に戻ったとはいえ、資材高騰もあり、現単価では、国の補填措置はあるものの、経営的にかなり厳しい状況とのこと。

やはり、国内消費が停滞しており、購買者の抱える肉が捌けない状況で、この傾向はしばらく続くとの見込みであり、繁殖子牛市場の低迷もあり、和牛生産者の生産意欲は大いに低下している状況となっている実情を感じ取ってきた。

市行政としては、コロナ対策として、生産費支援などの一過性の補助は行った経緯はあるが、本状況は恒常的なものであり、市の補助はなかなか難しいものと思われ、給食食材利用やイベントでの購買など消費拡大につながる取組の検討が必要と感じられた。

狭山市について

○人口：148,405人（男性 73,980人 女性 74,425人） 【令和6年7月】

○総世帯数：72,553世帯

○面積：48.99km²

○財政規模：令和6年度一般会計当初予算 535億円

○共働き子育てしやすい街ランキング2022 狭山市が県内第1位

全国180の自治体を対象に「日経xwoman」と「日本経済新聞社」が共同で実施した「自治体の子育て支援制度に関する調査」結果をもとに「共働き子育てしやすい街ランキング2022」が発表され、狭山市が県内第1位との評価をいただきました。

この調査は、2015年から毎年実施されているもので、8回目となる今回の調査では、認可保育所や学童保育といった「子育て関連施設（インフラ）」の充実度に加えて、自治体独自の不妊治療助成や2人目以降の子育て支援など、「少子化対策に力を入れているか」という点が重視されました。

○子育てに係る主な支援施策

◆こども医療費

- ・中学生までのお子さんの医療費を助成する制度です。令和5年(2023年)10月診療分より、対象年齢を「18歳年度末までの児童」へ拡大します。
- ・受給者の所得制限なし
- ・入院時の食事代全額助成
- ・こども医療費受給者証を提示することで、埼玉県内の医療機関での窓口払が不要です（一部対象外あり）。

◆訪問型子育て支援事業

就学前のお子さんがある家庭に、育児経験のあるボランティアが訪問し、子育てに悩んだり、疲れたりしている母親の気持ちに寄り添い、悩みを聞いたり、一緒に育児や家事を行いながら、子育て支援を行うものです。

◆妊娠から就学までの「切れ目」のない支援

妊娠届け出の際、保健師、助産師が面談し、妊娠・出産・子育てに関する相談を行っています。

出産後は、助産師による新生児訪問や出産後の休息を目的とした宿泊型産後ケア事業を行っています。

◆児童館・子育てプレイス

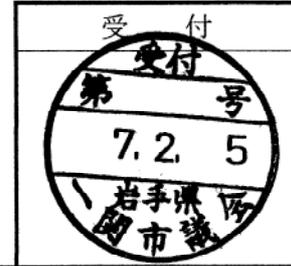
児童館は、18歳以下のお子さんが自由に遊び、体験できる場です。市内4館において、自然体験事業や親子対象事業等、さまざまな事業を実施しています。子育てプレイスは、3歳以下のお子さんとその保護者が気軽に立ち寄り、相談や交流、情報交換、子育て中の親子の仲間づくり等ができる場として、市内5か所で運営しています。

○視察内容：子育てプレイス、子育て支援センター事業の取り組み

- 幼児教育、保育の無償化の取組
 - －開始時期と対象者
 - －市民の反響
 - －制度の拡充
 - －他に保護者負担無償化の動きはあるか。
- おでかけ支援事業
 - －子育てプレイス、子育て支援センターの取組内容
 - －各施設の利用状況
 - －課題と今後の取組
- 子育て相談、支援事業
 - －相談・支援体制
 - －オンライン相談の仕組みと相談状況
 - －アプリ活用
 - －アプリの内容
 - －アプリ開設に係る経費
 - －活用実態と市民の反響
- 国が進める「こども家庭センター」機能の、市の体制は

調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議員 勝浦 伸行 様



報告年月日	令和7年2月5日
実施日(期間)	令和7年1月16日(木)～17日(金)
実施場所 (行先等)	1月16日:衆議院議員会館 1月17日:日本橋プラザビル
事業区分 (いずれかに○)	○ <u>研 修</u> ○ <u>調査研究</u> 要望・陳情活動 会議
事業内容	調査研究:以下内容で農林水産省担当職員からレクチャーを受け、質疑応答を行った。 ・食料・農業・農村基本法の改正に伴う、新年度予算における新規、拡充施策 研修:地方議会議員特別セミナー受講 新しい地域づくりへの挑戦 農業振興のために地方議会議員ができること
報告者	(会派名)輝郷会 (代表者) 小野寺 道雄
参加者	議 員 小野寺道雄 議 員 千葉 幸男 議 員 千葉 信吉 議 員 猪股 晃
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・別紙 2. 概要・・・・・・・・別紙 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙
主要 資料名	別紙レジメ

別紙

1. 目的

議員資質の向上と、今後の市政に対する提言等に役立たせるため。

2. 概要

農林水産省レクチャー

- ・改正食料・農業・農村基本法の概要及び、改正ポイントの説明を受ける。
- ・新年度予算の概要及び重点施策の説明を受ける。

説明後、各種施策に対して何点か意見交換を行い、施策の理解を深めるとともに、改善要望等を行った。

地方議会議員特別セミナー

講義①：農村における「地域づくり」への挑戦—にぎやかな過疎を目指して—
講師 明治大学農学部教授 小田切徳美 氏

- ・人口減少下、人口増加に向けた施策も重要であるが、合わせて、少人数でも活気のある地域づくり（にぎやかな過疎）を進めていくことが肝要であり、そのための人づくりや関係人口の拡大が重要との話であった。

講義②：ゆき みず だいち すなんまち 人口減少下の成長戦略

講師 津南町長 桑原 悠 氏

- ・負のスパイラルを止める施策の展開と人口減少に合わせたスクラップを合わせて行う、地域の生き残り戦略について、実践事例を交えて説明を受ける。

実践事例—移住定住施策（暮らし体験ツアー、おてつたび等）

住民主体の次世代リーダー育成の場の創出（やってみる会）

空き店舗活用のテレワーク施設整備（だんだん）

国内大手企業との連携（無印良品、ファミリーマート等）

世界に発信する国際芸術祭開催（大地の芸術祭）

継業バンク

講義③：地域力創造施策の活用可能性

講師 総務省地域力創造グループ地域振興室長 近藤 寿喜 氏

- ・地方への人の流れを創出する、地域おこし協力隊、地域活性化起業人、子ども農山漁村交流推進事業の解説、及び、地域の暮らしを守る、地域運営組織、過疎対策について説明を受ける。

3. 参考とすべき事項・所感

○農林水産省レクチャー

新年度に向け、新設あるいは拡充される事業については、市としても早めに情報収集して、タイムリーに取り組めるよう行政側を促していくこととしたい。

与党だけの政権運営が難しくなっている状況下、野党の主張も聞き入れていくような情勢となっており、省としても前向きにとらえるような雰囲気も感じられ、職業として選ばれる農業に向け、大胆な政策を期待したいものと感じた。

○地方議会議員特別セミナー

人口減少を前提として、地域づくりは、人材育成や関係人口の拡大の取組が、ますます重要性を増しており、このような取組なくしては地域の存続が危うくなることを改めて強く感じた。

また、今後の地域づくりの進め方や取組を学ぶ中、市として足りないもの、今後取り組んでいかなければならないことなど、多くの気付きがあった。

各市町村が主体的に地域づくりを進めていくにあたり、国としても様々な支援メニューを用意していることから、市としても、国の支援を上手に活用し、先見性を持って地域づくりが進むよう、仕組みづくり（戦略）を促していきたいと感じた。

農林水産省職員レクチャー



地方議会議員特別セミナー

